

将来像 2



“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、
世界中で活躍する人々を輩出するまち

3

目標像

市民一人一人が自ら学び、
様々な場面で協力しながら活躍している

1 生涯学習

- ① 生涯学習拠点・機会の充実
- ② 学校と地域の協働による生涯学習の推進
- ③ スポーツ、芸術・文化の振興
- ④ 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進

2 協働のまちづくり

- ① 地域間の情報交換・情報共有・学習の場の提供
- ② 活動拠点を核とした地域活動の促進
- ③ 地域活動への参加促進



1 生涯学習

10年後の
目指す姿

多彩な生涯学習の場が充実し、 それらを担い、推進していく人材が育っている

現状

- 働き方改革による余暇活動の充実などの取組により、市民の学びに対する関心が高まっています。
- 価値観の多様化により、学びの内容にかかる市民ニーズが高度化、多様化しています。
- 市内の地域交流センター、図書館利用者の年齢層には偏りがあり、利用者数は減少傾向にあります。
- 各種団体がスポーツや芸術・文化に関する様々な活動を行っていますが、会員の固定化・減少が進んでいます。
- 共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化する中で、子育てに不安を持つ保護者も多く、地域全体で家庭教育を支えることの重要性が高まっています。

課題

- 個人及び社会のニーズへの対応、幅広く市民に利用・普及させるための仕組みの構築や人材育成が必要です。
- 人生100年時代を見据え、全ての人々がウェルビーイング*を実現するため、幅広い年齢層がともに活躍しながら、学びの成果を地域社会やまちづくりなどに還元できる学習環境の充実が必要です。
- スポーツ、芸術・文化の継続的な振興に取り組むためには、スポーツ施設等の老朽化への対応や、活動の基礎となる人材や各種団体の育成などの基盤づくりが必要です。
- 子供や青少年の健全育成には、家庭の教育力を向上させる取組と家庭、学校、地域などの連携による地域の教育力を向上させる取組が必要です。

竹原市の強み

- 地域ごとに整備されている生涯学習の拠点
- 豊富な歴史的資料を有し、明治時代から図書館活動を行っている「市立竹原書院図書館」
- 200年の時を超える「文教のまち」としての矜持が息づいた文化活動等

成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
図書館利用（貸出）者数（延べ）（人） （年度）	33,519人	34,000人
竹原市美術展の応募者数（点） （年度）	29点	30点
竹原市民スポーツ大会参加者数（人） （年度）	1,088人	1,100人
ピースリーホームバンブー総合公園の スポーツ施設利用者数（人） （年度）	33,052人	34,000人
地域人材養成講座受講者数（累計）（人） （各年3/31現在）	35人	100人

取組の方向性

① 生涯学習拠点・機会の充実

○地域ごとに配置する「地域交流センター」や図書館の活動拠点を活用し、市民が生涯学習に取り組める機会を創出するとともに、市民のニーズを満たす学習内容の提供に努めます。

主な取組

- 拠点施設の周知広報と学校や文化活動団体などとの連携による利用促進
- 地域課題やニーズに応じた講座等の提供 など

② 学校と地域の協働による生涯学習の推進

○学びの成果を地域社会に還元し地域の活力を高めるため、学校・地域と連携し生涯学習を推進するとともに、地域の活動を担っていく人材の育成に取り組めます。

主な取組

- 学校と地域の連携強化による生涯学習環境の充実
- 生涯学習を通じた地域活動の担い手人材の育成 など

③ スポーツ、芸術・文化の振興

○豊かなスポーツライフ、芸術・文化振興に向けた普及・指導等に必要の人材・組織の育成に取り組むとともに、市民が参加しやすい機会の提供や施設の整備など、環境の充実を図り、裾野の拡大につなげます。

主な取組

- 普及、指導を担う人材・組織の育成
- 各種スポーツ、芸術・文化イベントの開催 など

④ 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進

○あらゆる可能性をもつ青少年が心身ともに健やかに成長し、自らが持つ個性や能力を活かして社会で自立できるよう、家庭や学校、地域などの連携による教育力の向上を図ります。

主な取組

- 子育てに関する学習機会の提供による家庭教育力の向上
- 家庭、学校、地域などの連携による地域全体の教育力の向上 など

関連する
分野別
個別計画

- 竹原市教育大綱 令和6～令和10(2024-2028)年度



ときめき講座



学校と地域の協働による
町なか美術館



トップアスリートスポーツ教室



中学生話し方大会

2 協働のまちづくり

10年後の
目指す姿

多くの人々が地域の魅力づくり・課題解決に関わり、 住みよいまちづくりが進められている

現状

- 全国各地で地縁による住民主体の地域づくりが行われ、地域の魅力づくりや地域の課題解決に向けた取組が進められています。
- 市内全域で、自治会・市民活動団体・学校・地域交流センター・消防団・NPO法人・企業・行政等が連携・協力する住民自治組織 17 団体が設立されています。
- 住民自治組織により、「自助・共助・公助*」の視点のもと、地域と行政が補完・連携しながら、地域の課題解決や魅力づくりなどが進められています。
- 近年の多発する災害では、「自助・共助」による地域独自の避難所が開設されるなど、住民自治組織によるこれまでの取組成果が発揮されました。

課題

- 魅力ある地域づくりや地域課題の解決への取組を継続・発展させるためには、活動拠点を中心にして、住民が気軽に集い、議論や交流を深めていく必要があります。
- 地域行事への参加者が固定化しており、幅広い世代が参加できる仕組みづくりが必要です。

竹原市の強み

- 市内全域で設立されている 17 団体の住民自治組織
- 住民自治組織による「自分たちの地域は自分たちで守る」といった自主防災意識の芽生え
- 住民自治組織内に組織されている、防災・防犯・環境・高齢者支援など地域課題に応じた部会の存在

成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
地域交流センター利用者数 (延べ) (人) (年度)	78,824 人	140,000 人

取組の方向性

① 地域間の情報交換・情報共有・学習の場の提供

○各住民自治組織の課題などを集約・共有し、情報・意見交換や学習する場として、様々な世代が参加できる交流会等を開催するとともに、市外を含めた団体間・地域間の連携を促進し、住民主体の地域づくりの活性化を図ります。

主な取組

● 団体・地域間連携の促進のための自治組織交流会等の開催 など

② 活動拠点を核とした地域活動の促進

○地域の課題解決・魅力づくりのため、地域の実情に合った利用しやすい活動拠点を設置し、拠点を核として、地域活動の促進を図ります。

主な取組

● 地域活動などに利用しやすい「地域交流センター」の管理運営 など

③ 地域活動への参加促進

○地域活動や確実な情報伝達の基盤となる自治会への加入率を高めるため、転入時などの機会を捉え、自治会活動への理解の深化に努め、加入促進を図ります。

○地域行事や講座等を通じて、地域活動の中心となるリーダーを養成し、地域活動の活性化と参加しやすい環境づくりを支援します。

主な取組

● 地域リーダー養成講座の開催 など

関連する
分野別
個別計画

● 竹原市協働のまちづくり推進プラン 平成 17 (2005) 年 1 0 月～



圏域まちづくり大学事例発表



産業文化祭



地域交流センター職員研修

